



2025年 秋号



# 放射線科だより

こんにちは！南大阪病院 放射線科です！放射線科だよりの初めての発行です ✨ ✨  
今回はCT検査についてわかりやすくご紹介します！ ✨ ✨

## CT検査とは

CTとは、Computed Tomography（コンピュータ断層撮影）の略称です。レントゲンと同じX線を使用した検査となります。CTはドーナツ状の筒があり、体がこの筒を通る際にX線を体に照射し、撮影を行います。  
この時、体の中の成分によってX線の通り抜ける量が変わります。密度の高い骨などはX線が通り抜けにくく、画像では白く映ります。反対に、空気が多く密度が低い肺などはX線が通り抜けやすく、画像では黒く映ります。このX線の通り抜ける量の差を画像化することで、普段よくみられるCT画像となります。



肺をみるときのCT画像

お腹をみるときのCT画像



## CT画像の活用

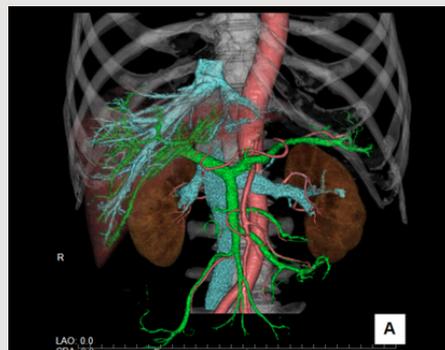
撮影された画像データを用いて、様々な角度から体を観察できます。よく使われるのは、体を横からみた矢状断（サジタール画像）、体を正面からみた冠状断（コロナール画像）です。

また3D画像も作成可能です。手術や検査結果の説明に使用されています。



矢状断

冠状断



3D画像

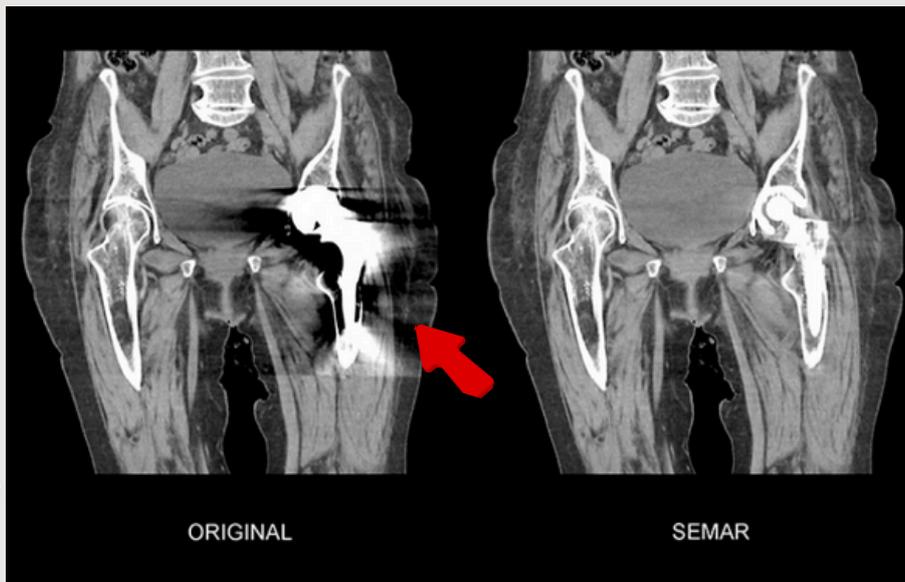


## 当院の装置について

マルチスライスCT（多列検出器CT）です。この多列検出器とは、X線を受け取る部分（検出器）が複数並んでいる装置のことです。一度に撮影できる範囲が増え、検査時間が短くなります。撮影部位によっては、約5秒での撮影が可能となります。



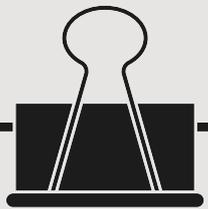
また、画像のノイズや放射線被ばくを低減するAiCEという機能や金属による画像の影響を軽減するSEMARという機能が備わっております。そのため、手術などで体内に金属を留置していてもCT画像への影響が少なくなりました。



股関節に金属が留置されています。ORIGINAL画像では、金属の周りが黒く抜けてしまっており（赤矢印の部分）、診断がしにくいです。SEMAR画像では、黒く抜けている部分が改善されています。

## 造影検査

CTの検査には、静脈から造影剤を注入して撮影をする造影検査があります。造影剤を使用することで、血管や臓器の血流の変化などを検査できます。また、白と黒の濃淡の差がより強調されることで、正常部位と腫瘍などを見分けることにも用いられます。



## 被ばくについて

CT検査は、放射線を使用する検査であり、被ばくを伴います。そのため、患者さんの病態にあわせて必要と判断された場合のみ施行します。さらに被ばくに関して、出来る限り少ない放射線量で検査をするように日々努めております。ぜひ安心して、検査を受けていただきたいと思います。

## 最後に

今回は、CT検査について簡単にご紹介しました。CT検査は緊急で行われることも多く、日中を通して常時稼働しています。そのため、検査を受けられる方にはお待ちいただくことがあり、また救急の患者さんの対応のため、順番が前後する場合がございます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

CT検査に関する造影検査や被ばくに関することなど、今後の【放射線科だより】で詳しくご紹介していく予定です。次回もぜひご覧ください。

ご不明な点やご不安なことがございましたら、どうぞお気軽に放射線技師や医療スタッフにお声がけください。



景岳会南大阪病院 放射線科  
〒559-0012

大阪府大阪市住之江区  
東加賀屋1-18-18

TEL 06-6685-0221

FAX 06-6685-5208

病院HP

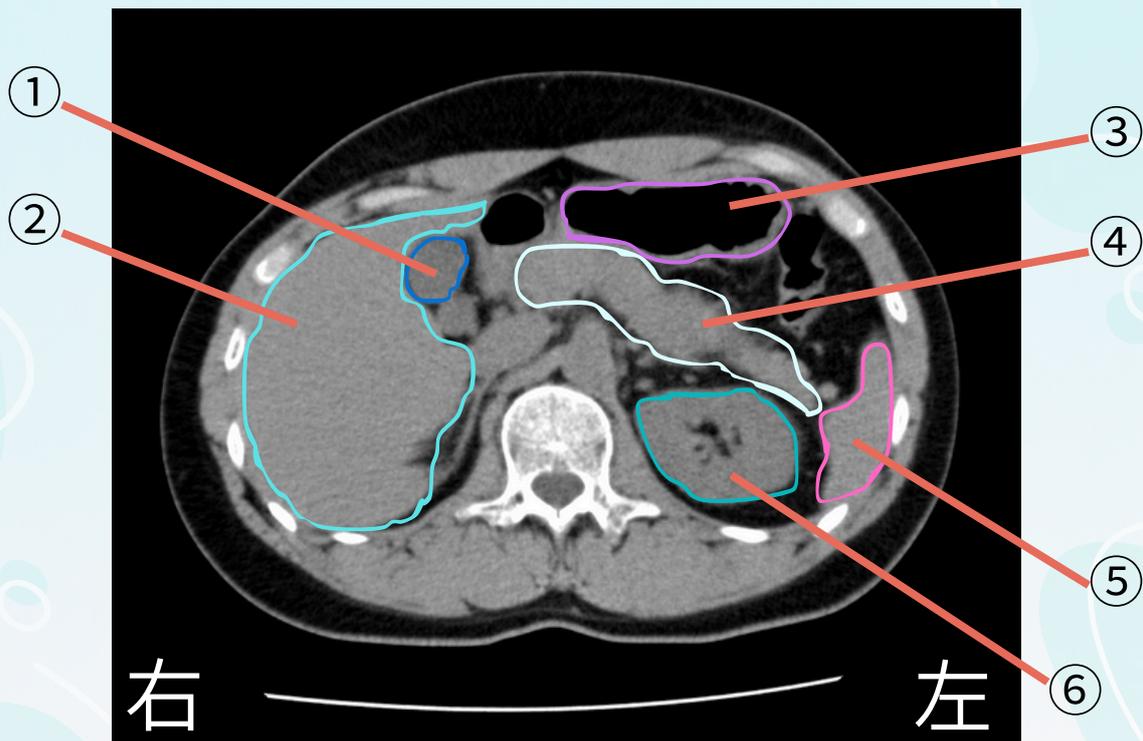


CT画像でなにがみえる??

## 腹部CT アキシャル画像

お腹のCT画像の1枚です。

どのような臓器が映っているのでしょうか？



CTは足元から見た画像なので、左右が反対になっています。

①胆のう

②肝臓(右葉がみえています)

③胃(袋状なので空気の部分が黒く見えています)

④膵臓(雲のようなもこもことした細長い臓器)

⑤脾臓

⑥左腎臓(右腎臓は肝臓によって少し下に位置しています)

1枚の画像だけでも様々な臓器が確認できます！

今回は肝臓あたりの画像でしたが、違う部位での画像紹介も今後行ってまいります！